

「第4回 AI 手話翻訳ワークショップ」を開催しました。

2026年7月24日（金）に、北九州市のアジア太平洋インポートマートにて、当協議会が主催する「第4回 AI 手話翻訳ワークショップ」を開催しました。

同ワークショップには、対面で24名、オンラインで40名の合計64名の参加申し込みがあり、第1部では、「東京都の「コミュニケーション・バリアフリー事業」に係る取組み紹介」として、東京都福祉局障害者施策推進部企画課意思疎通支援担当 課長代理の小林祐子様より、「東京都の障害者情報コミュニケーションに関する施策及びコミュニケーション・バリアフリー事業について」のご説明を頂いた後、コミュニケーション・バリアフリー事業の代表機関である電気通信大学 副学長/大学院情報理工学研究科情報学専攻/人工知能先端研究センター教授の高橋裕樹様、および連携機関であるソフトバンク（株）技術統括プロダクト R&D 本部課長の田中敬之様とアイホン（株）新規事業戦略担当課長の尾関貴志様より、それぞれの機関における取組のご紹介を頂きました。

第2部では、会員および非会員の団体等からの活動紹介として、福岡県福祉こども政策部障がい福祉課主任主事の北嶋唯斗様より、「福岡県手話言語条例に基づく取組について」を、また東日本旅客鉄道株式会社上野事業本部 CX 戦略ユニットの金山翔平様より、「東京 2025 デフリンピックを契機とした JR 東日本の取組み」に関するご発表を頂きました。

第3部では、九州の自動車業界における聴覚障害者との共生に関する取組み紹介として、日産自動車九州より、同社の取組みをご紹介頂いた後、人工知能（AI）を利用した手話翻訳の実用化を加速する取組みとして、手話の画像データの収集や、学習データの作成、および活用方法（ノウハウ）などに関して、大学、企業、および利用者側での工夫を共有化し、相互の連携による活動の拡大・強化に関する意見交換を行いました。



ワークショップの様子

当協議会では、今後もワークショップやシンポジウムなどの開催を通じて、きこえない人ときこえる人の双方が円滑なコミュニケーションが出来る社会基盤の構築を推進するとともに、協議会の活動に賛同頂ける会員の募集に努めます。